

Vol.168



2022年6月1日発行

頸こりがもたらす「病」とは



頸は大変デリケートな場所です。何故なら頸には様々
な神経が通つて いるからで
す。中でも「迷走神経」とい
う神経は、脳が支配する最
大の神経です。「迷走」の由
来は、複雑な神経経路を形
成し、様々な末梢器官に広
く分布して いる様から名付
けられた そうです。脳から
末梢器官へ伝達する下行性
の神経と、末梢器官から脳
へ伝達する上行性の神経が

があり、下行性の神経は身体活動を沈静化する方向に働く副交感神経によつて構成されています。副交感神経全体の8割を担つており、お腹がすいたり、ぐつすり眠れたり、血圧が下がったり排便をしたくなったりするわけです。逆にお腹がすいたよ、どこかで炎症が起きたよ……といった各器官で知覚される情報は、上行性の迷走神経を介して脳に伝

達されます。つまり、迷走神経はメンタルヘルスケアとの密接な関係があることが明らかになっています。この神経は、両側の頭蓋骨から出て、頸の両側面を通り、様々な役割を担うわけです。から、頸こりが起ると、電気製品のコードが圧迫を受け、正常に機能しなくなるのと同じような状況が起ります。迷走神経が優位となり、様々な不定愁訴が現れると考えられるわけです。迷走神経が圧迫を受けやすい頸や肩こりを和らげる事が、不定愁訴を解決する鍵となりそうです。

◇ 関修一（せきしゅういち）
健育会 東銀座整骨院・整体院・
鍼灸院・マッサージ院 院長
代替医療の総合治療院としての
確立を目指す。タイトルの face
to face 「患者さんと自身と回を
合つて患者さんの症状と闘つ」
とを願つてつけた
※毎月一冊の発行です